

NSG

GROUP

NSG グループ

2022年3月期 第2四半期決算報告

(2021年4月1日～ 2021年9月30日)

日本板硝子株式会社
2021年11月11日

森 重樹

代表執行役社長兼CEO

楠瀬 玲子

執行役常務 CFO

目次

1. 2022年3月期 第2四半期 決算概要
2. 2022年3月期 業績予想について
3. リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の進捗
4. サステナビリティの推進
5. まとめ

1. 2022年3月期 第2四半期 決算概要

連結損益計算書



自動車用ガラス事業の不調を建築用ガラス事業、高機能ガラス事業の好調がカバー。
原燃材料費高騰の影響も値上げ、コスト削減で吸収、黒字を継続し、上半期業績予想を上回る

| (億円) | 7-9月期 (3か月) | | | 累計 (6か月) | | | 上期業績 予想 |
|---------------------------------|--------------|--------------|--------|--------------|--------------|--------|------------|
| | 2021年 3月期 | 2022年 3月期 | 差異 | 2021年 3月期 | 2022年 3月期 | 差異 | |
| 売上高 | 1,296 | 1,430 | 134 | 2,215 | 2,907 | 692 | 2,800 |
| 営業利益 | 38 | 55 | 17 | 32 | 127 | 95 | 120 |
| 営業利益率 | 2.9% | 3.9% | +1.0pt | 1.4% | 4.4% | +3.0pt | 4.3% |
| 個別開示項目(COVID-19関連) | △ 13 | - | 13 | △ 128 | - | 128 | - |
| COVID-19関連個別開示項目後 営業利益 (△損失) | 25 | 55 | 30 | △ 96 | 127 | 223 | 120 |
| 個別開示項目(その他) | △ 8 | 47 | 55 | △ 8 | 45 | 53 | 50 |
| 個別開示項目後営業利益 (△損失) | 17 | 102 | 85 | △ 104 | 172 | 276 | 170 |
| 金融費用(純額) | △ 30 | △ 29 | 1 | △ 54 | △ 58 | △ 4 | △ 60 |
| 持分法による投資損益 | 2 | 19 | 17 | △ 2 | 33 | 35 | 20 |
| 税引前利益 (△損失) | △ 11 | 92 | 103 | △ 160 | 147 | 307 | 130 |
| 当期利益 (△損失) | △ 7 | 67 | 74 | △ 172 | 96 | 268 | 90 |
| 純利益 (△損失) * | △ 9 | 61 | 70 | △ 173 | 86 | 259 | 80 |
| EBITDA | 127 | 146 | 20 | 188 | 311 | 123 | |

自動車用ガラス事業の7-9月期は減収だが、建築用ガラス事業、高機能ガラス事業は大幅増収を継続。グループ全体で営業黒字を継続し、上期業績予想を上回る

【売上高(事業別)：前年比】

| | Q2 | 累計 |
|--------|------|------|
| 建築用 | +25% | +33% |
| 自動車用 | △ 4% | +28% |
| 高機能 | +23% | +32% |
| グループ全体 | +10% | +31% |

バッテリーセパレーター事業
譲渡益等

ブラジル等持分法適用会社
の業績回復

2021年11月11日 | 2022年3月期第2四半期決算報告

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

6

6ページは連結損益計算書になります。

ご覧の表の左側が第2四半期(3か月)の業績、その右側が上半期累計(6か月)の業績になります。

当第2四半期では、自動車メーカーが半導体等自動車部品不足等の影響を受け、減産を余儀なくされたため、自動車用ガラス事業の売上高は前年同期から4%減少しました。しかし、建築用ガラス事業や高機能ガラスでは事業環境の改善が継続し、売上高は前年同期から10%以上増加しました。原燃材料費高騰の影響も受けましたが、値上げ、コスト削減で吸収し、売上高は1,430億円、営業利益は55億円と前年同期比で増収増益、黒字を継続しています。

上半期累計でも、売上高は前年同期比31%増の2,907億円、営業利益は前年同期比95億円増加し127億円と大幅な増収増益となり、前回上方修正した上期業績予想を上回りました。

営業利益より下の項目を見て頂くと、当第2四半期にバッテリーセパレーター事業の譲渡に伴う利益を計上しました。個別開示項目の詳細は次のスライドでご説明します。また、ブラジルのセブラセ社を中心とした持分法による投資損益も改善したこともあり、当期純利益は当第2四半期で前年同期比70億円増の61億円、上半期累計で259億円増の86億円と大幅に増益となりました。

個別開示項目

バッテリーセパレーター事業譲渡に伴う利益を計上

| (億円) | 2021年3月期 | 2022年3月期 |
|---------------------------------------|--------------|-----------|
| | 4-9月期 | 4-9月期 |
| 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)関連* | △ 128 | - |
| 政府支援による収益 | 21 | - |
| 設備休止等に係る費用 | △ 149 | - |
| リストラクチャリング費用 | △ 10 | △ 1 |
| 事業の譲渡による利益 | - | 44 |
| 子会社及びジョイントベンチャーの売却による利益 | 6 | - |
| 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)関連 政府支援による収益 | - | 4 |
| その他 | △ 4 | △ 2 |
| 個別開示項目 純額 | △ 136 | 45 |

バッテリーセパレーター事業譲渡益

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)関連の損益は、本年度は通常の個別開示項目に計上

* 2021/3期は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のまん延により影響を受ける直接費と回収不能な事業運営コスト、及びそれに関連して政府により支給される補助金を個別開示項目として計上。これらにはCOVID-19により生産活動に従事できない従業員への給与支払や休止設備の維持費用、施設の安全な作業環境整備のために生じた清掃費用などの直接費用を含む。

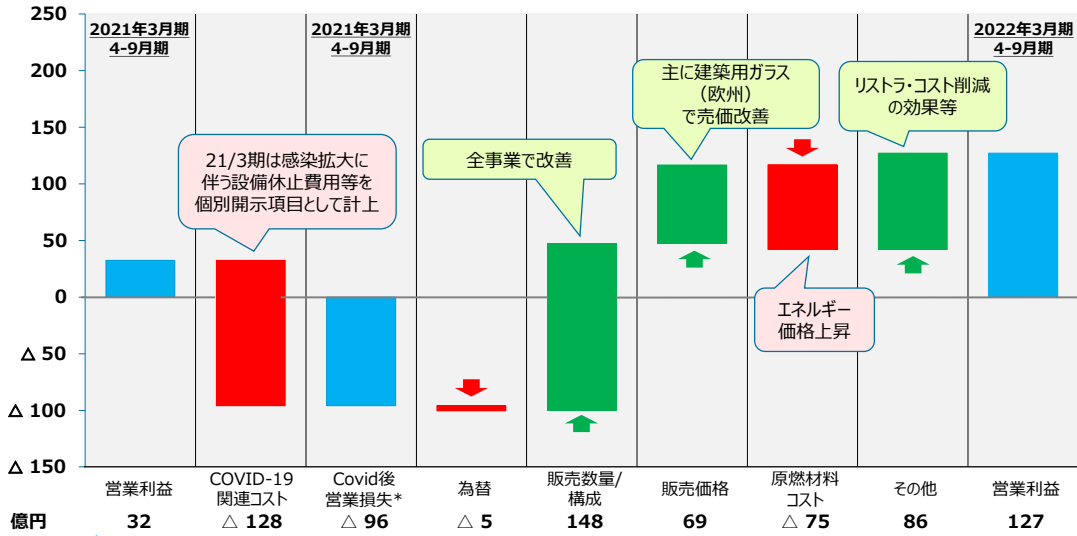
次の7ページでは、個別開示項目の内訳を説明いたします。

表の左側が前年度上半期累計、右側が当年度上半期累計です。

今期は、バッテリーセパレーター事業の譲渡益44億円、および新型コロナウイルス感染症関連の政府支援助益4億円を個別開示項目に計上しました。前年度2021年3月期は通常の個別開示項目とは別に新型コロナウイルス感染症関連の個別開示項目を設けていましたが、今年度に新型コロナウイルス関連の継続的損益が発生する場合は、営業損益項目として計上します。

営業利益差異分析 (上期累計)

需要の回復に加え、価格改善、コスト削減により原燃材料コスト増加を吸収し、大幅に改善



2021年11月11日 | 2022年3月期第2四半期決算報告

*COVID-19関連個別開示項目後営業損失

続いて8ページは上期営業利益について、前年同期との差異分析となります。

先ほども申し上げました通り、前年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う設備休止費用等を個別開示項目に計上したため、COVID-19関連個別開示項目後営業損失96億円との比較を示しています。

「為替」は5億円のマイナスですが、円安のため前年度の営業損失を当年度の為替レートで計算すると営業損失が増加することによるものです。

「販売数量/構成」は148億円プラスで、全事業で新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けた前年度から大きく改善しました。

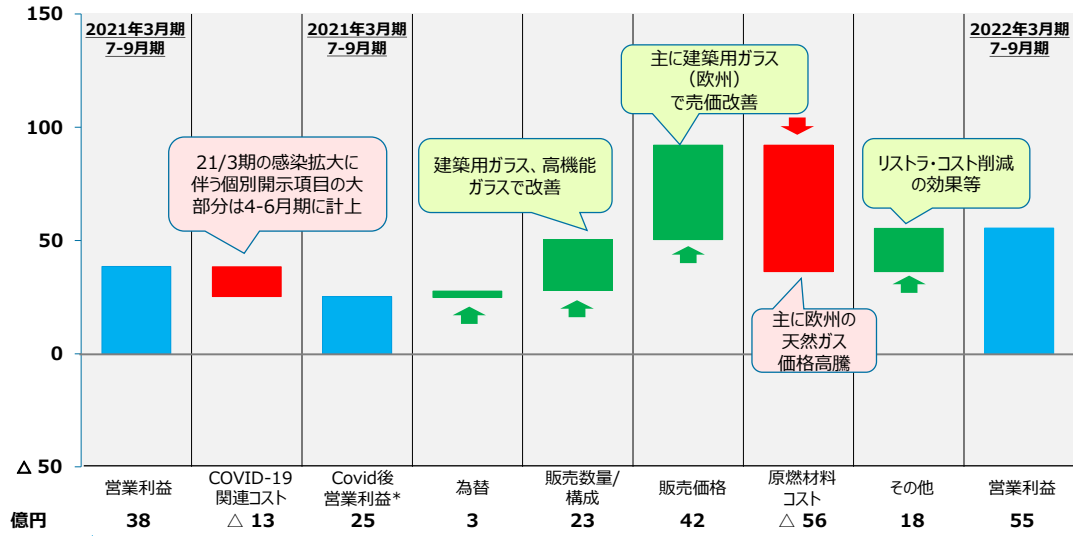
「販売価格」は69億円のプラスで、主に建築用ガラス事業の欧州において、需給引締まりに伴う価格改善によるものです。

「原燃材料コスト」は75億円のマイナスで、天然ガスを中心としたエネルギー価格の上昇の影響を大きく受けました。

「その他」は86億円のプラスとなり、リバイバル計画24（RP24）に基づくコスト構造改革の成果が反映されています。

営業利益差異分析 (7-9月期)

原燃材料コスト増加圧力が強まるも、引続き価格改善、コスト削減により吸収し、改善



2021年11月11日 | 2022年3月期第2四半期決算報告

*COVID-19関連個別開示項目後営業利益

続きまして9ページは7-9月期の営業利益について、前年同期との差異分析となります。

前年度のコロナウイルス感染拡大に伴う個別開示項目の大部分は第1四半期に計上し、第2四半期はCOVID-19関連個別開示項目後も営業利益25億円を計上したため、「為替」は円安の影響を受け3億円のプラスでした。

「販売数量/構成」は事業環境の改善が続く建築用ガラス事業と高機能ガラスで大幅に改善したため、23億円プラスの結果となりました。

「販売価格」は42億円のプラスで、これは主に建築用ガラス事業の欧州において、需給引締まりに伴う価格改善によるものです。

「原燃材料コスト」は56億円のマイナスで、欧州の天然ガスを中心としたエネルギー価格の上昇の影響を大きく受けました。

「その他」は18億円のプラスとなり、リバイバル計画24（RP24）に基づくコスト構造改革の成果が反映されています。

連結貸借対照表

純利益の計上等により自己資本比率が改善、10%超まで回復

| (億円) | 2021年 3月末 | 2021年 9月末 | 増減 | |
|-------------------|--------------|--------------|--------------|-----------------------------------------|
| 資産合計 | 8,250 | 8,292 | 42 | |
| 非流動資産 | 5,750 | 5,838 | 88 | デリバティブ金融資産の増加 |
| 流動資産 | 2,500 | 2,454 | △ 46 | |
| 負債合計 | 7,452 | 7,236 | △ 216 | |
| 流動負債 | 2,878 | 2,952 | 74 | 長期借入金から1年以内借入金にシフト |
| 非流動負債 | 4,574 | 4,284 | △ 290 | 買掛債務および引当金減少 |
| 資本合計 | 798 | 1,056 | 258 | |
| 親会社の所有者に帰属する持分 | 629 | 865 | 236 | 純利益の計上、エネルギーヘッジの評価益により改善、自己資本比率10%超まで回復 |
| 自己資本比率 (%) | 7.6% | 10.4% | 2.8pt | |
| ネット借入 | 4,117 | 4,032 | △ 85 | デリバティブ金融資産の増加 |

10ページは連結貸借対照表になります。

非流動資産の88億円は、デリバティブ金融資産の増で、世界的に燃料価格が上昇した事によるエネルギーヘッジによるものです。

流動負債は、非流動負債の長期借入金が1年以内借入金にシフトした一方で、買掛債務及び引当金が減少しました。

親会社の所有者に帰属する持分は、純利益の計上、エネルギーヘッジのためのデリバティブの評価益により、236億円増加しています。
この結果、自己資本比率は、10.4%と、前期末比で2.8ポイント上昇しました。

ネット借入は、デリバティブ金融資産の増加を受けて85億円減少しました。

連結キャッシュ・フロー計算書

利益改善、キャッシュ管理活動の継続に加え、事業譲渡収入もあり、累計のフリー・キャッシュ・フローは前年同期から大きく改善。通期でのプラスを目指し、順調に進捗

| (億円) | 7-9月期 (3か月) | | | 累計 (6か月) | | | |
|------------------|--------------|--------------|-------|--------------|--------------|-------|--------------------------------|
| | 2021年 3月期 | 2022年 3月期 | 差異 | 2021年 3月期 | 2022年 3月期 | 差異 | |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 228 | 152 | △ 76 | △ 78 | 145 | 222 | 利益改善やキャッシュ管理の徹底により、前年同期から大幅に改善 |
| (うち、運転資本の増減) | 155 | 33 | △ 122 | △ 66 | △ 87 | △ 21 | |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 103 | △ 70 | 33 | △ 264 | △ 159 | 106 | バッテリーセパレーター事業譲渡収入(62億円) |
| (うち、有形固定資産の取得) | △ 95 | △ 120 | △ 25 | △ 227 | △ 203 | 24 | |
| フリー・キャッシュ・フロー | 125 | 82 | △ 43 | △ 342 | △ 14 | 328 | |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 90 | △ 87 | 3 | 309 | △ 119 | △ 428 | |
| 現金及び現金同等物の増減 | 35 | △ 5 | △ 40 | △ 33 | △ 132 | △ 100 | |
| 現金及び現金同等物 期末残高 | | | | 375 | 407 | 33 | |

11ページは連結キャッシュフロー計算書です。

営業キャッシュフローは7-9月期の3か月間では152億円と運転資本増減の影響を受けて前年同期より76億円のマイナスとなりましたが、上半期累計では、利益改善、キャッシュ管理の徹底などにより222億円プラスの145億円となりました。

運転資本は累計で87億円増加しましたが、これは主に自動車用ガラス事業で棚卸資産が増加したためです。

投資活動によるキャッシュフローは、バッテリーセパレーター事業の売却収入もあり、累計で前年同期比106億円の改善となっています。

この結果、フリー・キャッシュ・フローも同じく前年同期から大幅に改善し、通期でのプラスに向けて順調に進捗しています。

セグメント情報



| (億円) | 2020年3月期 4-9月期 | | | 2021年3月期 4-9月期 | | | | 2022年3月期 4-9月期 | | | 前年同期比 | |
|------------------|----------------|-------------|-------------|----------------|-------------|-------------|-----------------|----------------|-------------|-------------|------------|-------------|
| | 売上高 | % | 営業利益 | 売上高 | % | 営業利益 | COVID後 営業利益* | 売上高 | % | 営業利益 | 売上高 | 営業利益 |
| 建築用ガラス事業 | 1,197 | 41% | 98 | 991 | 45% | 73 | 19 | 1,320 | 46% | 136 | 329 | 64 |
| 欧州 | 453 | 16% | | 382 | 17% | | | 549 | 19% | | 167 | |
| アジア | 470 | 16% | | 378 | 17% | | | 403 | 14% | | 24 | |
| 米州 | 274 | 9% | | 231 | 10% | | | 369 | 13% | | 138 | |
| 自動車用ガラス事業 | 1,482 | 52% | 52 | 1,053 | 48% | △ 24 | △ 99 | 1,352 | 47% | △ 11 | 299 | 13 |
| 欧州 | 629 | 22% | | 433 | 20% | | | 591 | 20% | | 158 | |
| アジア | 346 | 12% | | 258 | 12% | | | 280 | 10% | | 22 | |
| 米州 | 507 | 18% | | 362 | 16% | | | 482 | 17% | | 119 | |
| 高機能ガラス事業 | 202 | 7% | 35 | 165 | 7% | 25 | 22 | 217 | 7% | 57 | 52 | 32 |
| 欧州 | 35 | 1% | | 27 | 1% | | | 39 | 1% | | 12 | |
| アジア | 159 | 6% | | 133 | 6% | | | 172 | 6% | | 39 | |
| 米州 | 8 | 0% | | 5 | 0% | | | 6 | 0% | | 1 | |
| その他 | 5 | 0% | △ 36 | 6 | 0% | △ 42 | △ 38 | 18 | 0% | △ 56 | 12 | △ 15 |
| 合計 | 2,886 | 100% | 149 | 2,215 | 100% | 32 | △ 96 | 2,907 | 100% | 127 | 692 | 95 |

2021年11月11日 | 2022年3月期第2四半期決算報告

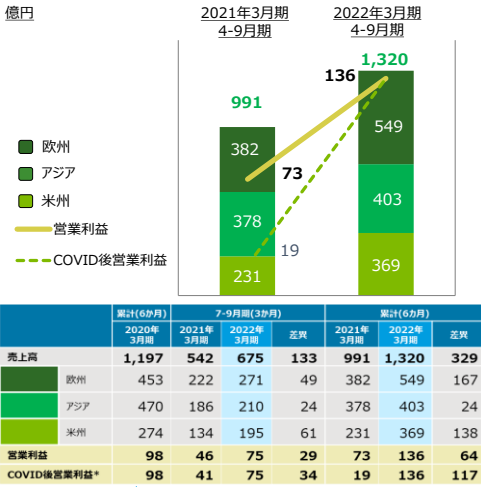
*COVID-19関連個別開示項目後営業利益 12

12ページは、過去3年度の4-9月期の事業セグメント毎に売上高及び営業利益を示しています。各事業の詳細については次のスライドでご説明します。

建築用ガラス事業 (累計：増収・増益 7-9月期：増収・増益)



欧州の好調が継続、アジア・米州で大幅に売上回復
エネルギーコスト上昇の影響を受けるも営業利益は大きく改善し、2020/3期実績を上回る



欧州 (累計：増収・増益 7-9月期：増収・増益)

- 供給能力を上回る需要により販売数量および価格が上昇
- 原燃材料・輸送コスト上昇の影響を、安定した操業とコスト削減努力で軽減

アジア (累計：増収・増益 7-9月期：増収・増益)

- 日本の販売数量および価格も回復の兆し、日本以外では好調を維持
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調

米州 (累計：増収・増益 7-9月期：増収・増益)

- 北米は、フロート窯の定期修繕と輸送コンテナ不足により出荷に多少の制約があるも、販売数量は増加
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調
- 南米は強い需要が継続

| | 累計(6か月) | | | | 累計(6か月) | | |
|-------------|--------------|--------------|--------------|-----|--------------|--------------|-----|
| | 2020年 3月期 | 2021年 3月期 | 2022年 3月期 | 差異 | 2021年 3月期 | 2022年 3月期 | 差異 |
| 売上高 | 1,197 | 542 | 675 | 133 | 991 | 1,320 | 329 |
| 欧州 | 453 | 222 | 271 | 49 | 382 | 549 | 167 |
| アジア | 470 | 186 | 210 | 24 | 378 | 403 | 24 |
| 米州 | 274 | 134 | 195 | 61 | 231 | 369 | 138 |
| 営業利益 | 98 | 46 | 75 | 29 | 73 | 136 | 64 |
| COVID後営業利益* | 98 | 41 | 75 | 34 | 19 | 136 | 117 |

2021年11月11日 | 2022年3月期第2四半期決算報告

*COVID-19関連個別開示項目後営業利益 13

13ページは、建築用ガラス事業です。

建築用ガラス事業は、欧州の好調が継続するとともにアジア・米州で売上高が大幅に回復しました。エネルギーコスト上昇の影響を受けましたが、需給環境を反映した値上げやコスト削減努力により吸収し、営業利益も大きく改善しました。これは新型コロナウイルスの影響を受ける前の2020年3月期上半期を上回っています。

欧州は、増収増益となりました。

供給能力を上回る好調な需要により販売数量・価格がともに改善しました。特に第2四半期には天然ガスを中心とした原燃材料・輸送コスト上昇の影響を受けましたが、安定した操業とRP24に基づくコスト構造改革施策で軽減しています。

アジアも、増収増益でした。

日本国内における販売数量・価格は第2四半期より回復の兆しを見せ、その他東南アジアの国々においては好調を維持しています。太陽電池パネル用ガラスの需要も堅調に推移しています。

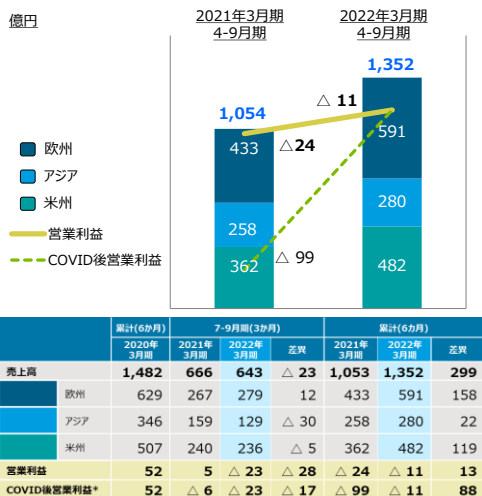
米州も、増収増益となりました。

北米は、フロート窯の定期修繕と輸送コンテナの不足により、若干出荷が制約されましたが、販売数量は増加、太陽電池パネル用ガラスの売上は引続き好調です。

南米は、強い需要が継続しています。

自動車用ガラス事業 (累計：増収・増益 7-9月期：減収・減益) NSG GROUP

7-9月期は部品不足による自動車生産制約の影響を受け減収減益となるも、累計ではCOVID-19影響を大きく受けた前年同期から大幅に改善



欧州 (累計：増収・減益 7-9月期：増収・減益)
 アジア (累計：増収・増益 7-9月期：減収・減益)
 米州 (累計：増収・増益 7-9月期：減収・減益)

- 7-9月期は、半導体等自動車部品不足による自動車生産の制約の影響を受け、日本を含むアジア、北米で販売数量が大幅に減少
- 累計では、COVID-19の影響により前年4-5月に広範なロックダウンが実行された欧州・北米で特に回復が大きい
- 原燃料コスト高騰の影響もあり、7-9月期は全地域で減益だが、累計では、全体として増益を維持

| | 累計(6か月) | | 7-9月期(3か月) | | | 累計(6か月) | |
|-------------|----------|----------|------------|------|----------|----------|-----|
| | 2020年3月期 | 2021年3月期 | 2022年3月期 | 差異 | 2021年3月期 | 2022年3月期 | 差異 |
| 売上高 | 1,482 | 666 | 643 | △ 23 | 1,053 | 1,352 | 299 |
| 欧州 | 629 | 267 | 279 | 12 | 433 | 591 | 158 |
| アジア | 346 | 159 | 129 | △ 30 | 258 | 280 | 22 |
| 米州 | 507 | 240 | 236 | △ 5 | 362 | 482 | 119 |
| 営業利益 | 52 | 5 | △ 23 | △ 28 | △ 24 | △ 11 | 13 |
| COVID後営業利益* | 52 | △ 6 | △ 23 | △ 17 | △ 99 | △ 11 | 88 |

2021年11月11日 | 2022年3月期第2四半期決算報告

*COVID-19関連個別開示項目後営業利益 14

14ページは自動車用ガラス事業です。

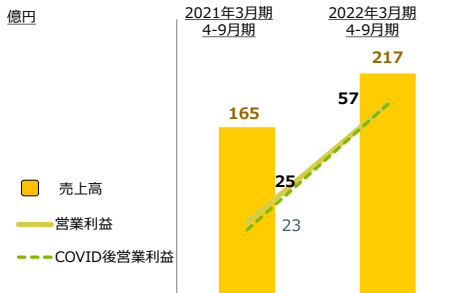
自動車用ガラス事業は、7-9月期は半導体等部品不足による自動車生産制約の影響を受け、日本を含むアジア、北米で販売数量が大きく減少し、また原燃材料コスト高騰の影響を受け、減収減益となりました。

しかし、累計ではCOVID-19の影響に伴い前年4-5月に広範なロックダウンが実行された欧州・北米で特に売上高の回復が大きく、全体として大幅な増収増益を維持しています。

高機能ガラス事業 (累計：増収・増益 7-9月期：増収・増益)



COVID-19の影響があった前年同期からの事業環境改善が継続、2020/3期実績との比較でも大幅に増収増益



高機能ガラス事業

- ファインガラスは、継続的なコスト削減による事業基盤の強化や売上構成の改善により業績は改善
- プリンター用レンズは、在宅勤務、オンライン授業向けにプリンター需要が引き続き増加
- グラスコードは中国を中心に需要が堅調。メタシャイン® は化粧品向け市場で需要回復の兆し
- バッテリーセパレーターは安定的に推移
(バッテリーセパレーター事業の譲渡は9月1日に完了)

| | 累計(6か月) | | | | 累計(6か月) | | |
|-------------|--------------|--------------|--------------|----|--------------|--------------|----|
| | 2020年 3月期 | 2021年 3月期 | 2022年 3月期 | 差 | 2021年 3月期 | 2022年 3月期 | 差 |
| 売上高 | 202 | 84 | 103 | 19 | 165 | 217 | 52 |
| 営業利益 | 35 | 11 | 29 | 17 | 25 | 57 | 32 |
| COVID後営業利益* | 35 | 11 | 29 | 17 | 23 | 57 | 34 |

2021年11月11日 | 2022年3月期第2四半期決算報告

*COVID-19関連個別開示項目後営業利益 15

15ページは高機能ガラス事業です。

高機能ガラス事業は、COVID-19の影響があった前年同期から事業環境改善が継続し、増収増益となりました。これは、新型コロナウイルスの影響を受ける前の2020年3月期第2四半期累計を上回っています。

ファインガラスは、継続的なコスト削減による事業基盤の強化や売上構成の改善により業績は改善しました。

プリンター用レンズは、在宅勤務、オンライン授業向けにプリンター需要が引き続き増加しています。

グラスコードは中国を中心に需要が堅調、メタシャイン® は化粧品向け市場で需要回復の兆しを見せています。

バッテリーセパレーターの業績は安定的に推移しました。当事業の譲渡は9月1日に完了しています。

2. 2022年3月期 業績予想について

2022年3月期業績予想の前提

| | |
|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| グループ | 上期実績は前回上方修正した予想を上回るも、通期業績予想は変更なし <ul style="list-style-type: none"> 高騰したエネルギー価格等による投入コスト増の影響を引き続き大きく受ける見通し 自動車用ガラス事業等不透明な事業環境を踏まえ、通期業績予想は据え置き 継続的なコスト削減の効果もあり、全事業で増収増益の想定は変わらず |
| 建築用ガラス | 欧州を中心にエネルギー価格高騰の影響を受けるが、良好な需給環境が継続 <ul style="list-style-type: none"> 欧州：天然ガス価格の高騰の影響を受けるが、需給引き締まりを受けた価格上昇で吸収 アジア：日本の数量および価格も回復基調にあり、好調継続 北米：経済活動再開に伴い域内市場は引き続き好調 南米：タイトな需給環境が継続 太陽電池パネル用ガラス：数量増加を見込む |
| 自動車用ガラス | 自動車需要は堅調だが、半導体等部品不足の影響を受ける想定 <ul style="list-style-type: none"> 全地域で自動車需要と在庫逼迫感は一層強まるが、半導体等部品不足の解消タイミングに関しては不透明感が継続 追加コスト削減により、通期黒字化を目指す |
| 高機能ガラス | 全体として事業環境の改善が継続 <ul style="list-style-type: none"> ファインガラスは、売上構成の改善と継続的なコスト削減が貢献 プリンター用レンズは当面在宅勤務による需要増加の恩恵が続く |

続いて2022年3月期の業績予想です。

上期実績は前回上方修正した予想を上回り着地しましたが、通期業績予想の変更は致しません。これは、今後もエネルギー価格等の高騰で、投入コストは大きく影響を受けると見込んでいることや、自動車用ガラス事業等の不透明な事業環境を踏まえたためです。

ただし、リバイバル計画24（RP24）に基づく継続的なコスト削減努力などの効果もあり、全事業で増収増益の想定です。

事業別に見ますと、建築用ガラス事業で好調な需要継続を想定しております。

欧州では天然ガスの価格上昇が継続する見込みですが、需給の引き締まりを受けた価格上昇で低減していきます。

アジアでは、日本の数量および価格も回復基調にあり、好調が継続する見込みです。

北米では、経済活動再開に伴い、需要は引き続き好調で、南米でもタイトな需給環境が継続する見込みです。

太陽電池パネル用ガラスは、数量増加を見込んでいます。

自動車用ガラス事業は、全地域で自動車需要と在庫ひっ迫感は強まる一方ですが、半導体等部品不足の解消タイミングは依然不透明です。

追加のコスト削減プロジェクトを実施し、自動車用ガラス事業での通期黒字化を目指します。

高機能ガラス事業では、引き続き事業環境の改善が継続する見込みです。

2022年3月期通期業績予想

上期実績は前回上方修正した予想を上回るも、通期業績予想は変更なし



| (億円) | 2022年3月期 上期予想 (前回) | 2022年3月期 上期実績 | 2022年3月期 通期予想 (変更なし) | 2021年3月期 通期実績 |
|----------------------------|--------------------------|------------------|----------------------------|------------------|
| 売上高 | 2,800 | 2,907 | 5,600 | 4,992 |
| 営業利益 | 120 | 127 | 240 | 131 |
| COVID関連個別開示項目後 営業利益 | 120 | 127 | 240 | △ 30 |
| 個別開示項目（その他） 個別開示項目後営業利益 | 50 | 45 | 50 | △ 53 |
| 営業利益 | 170 | 172 | 290 | △ 83 |
| 金融費用（純額） | △ 60 | △ 58 | △ 130 | △ 110 |
| 持分法による投資損益 | 20 | 33 | 30 | 21 |
| 税引前利益 | 130 | 147 | 190 | △ 172 |
| 当期利益 | 90 | 96 | 120 | △ 163 |
| 純利益* | 80 | 86 | 100 | △ 169 |

2021年11月11日 | 2022年3月期第2四半期決算報告

*親会社の所有者に帰属する当期利益

18

スライド18ページにうつります。

こちらが2022年3月期の業績予想になります。

表の左側から、2022年3月期の前回上期予想、上期実績、前回通期予想です。


先ほど申し上げました通り、上期実績は前回修正予想を上回りましたが、通期業績予想の変更は致しません。

3. リバイバル計画24（RP24）に基づく 構造改革施策の進捗

リバイバル計画24 (RP24) 構造改革施策の進捗



RP24に基づき、持続的な成長が可能な事業体質を目指して主要施策を執行中

| | | |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3つの改革 | コスト構造改革 ・ 人員削減：欧米の自動車用ガラス事業を中心に拠点、製造ラインを統廃合、22/3期累計で500人超を削減（20/3期比58億円削減）、21/3期と合わせて2,000人超を削減（22/3期末までに同130億円削減の見込み）（退職コストは21/3期に引当済） ・ コスト削減：「改革・革新」活動を通じた直接費低減を推進中、これまで23億円削減し、期末までに43億円削減の見込み。カナダの事業所に蓄電システムを設置し、電力消費量とCO2排出量を削減 ・ 自動車用ガラス事業における約50億円の追加コスト削減を開始 | |
| | 事業構造改革 ・ 米国、ベトナム 太陽電池パネル用ガラスが収益寄与と同時にCO2削減による地球環境の保護に貢献 ・ アルゼンチン新フロート窯建設は、23/3期の早い段階で本格稼働開始を目指す ・ BIPV（建材一体型太陽電池パネル）、抗ウイルスガラス等オンラインコーティング技術を活用した新製品の供給や、プリンターレンズのオフィス用プリンターへの適用拡大、グラスコードの産業用機械、ロボットへの適用拡大 ・ クリエイトIP・テクノロジー事業開発統括部を新設 ・ 水素燃焼や透明な窓用太陽光発電パネルの実証実験等、カーボンニュートラルを目指した取り組み |  透明な窓用太陽光発電パネルの実証実験 |
| | 企業風土改革 ・ 「インクルージョン&ダイバーシティ (I&D)」への取り組みをグローバルで強化、女性管理職比率上昇、若年層活性化を目指す ・ RP24の目標を達成するために必要な人材アジェンダを特定し、目指すべきゴールを定量化、人材戦略を構築 | |
| 2つの重点施策 | 財務基盤の回復 (2022年3月期 4-9月期実績) ・ 黒字を継続。純損益は前年同期から約260億円の大幅改善、自己資本比率も10%超まで回復 ・ 2021年9月末現預金残高434億円、未使用融資枠780億円 | |
| | 高収益事業へのポートフォリオ転換 ・ バッテリーセパレーター事業譲渡：9月1日完了 | |

2021年11月11日 | 2022年3月期第2四半期決算報告 RP24 説明資料: https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtpr24presentation2021_j01.pdf

20

続いて20ページ、リバイバル計画24(RP24)に基づく構造改革について、主要な進捗をご説明します。

RP24では持続的な成長が可能な事業体質を目指して「3つの改革」と「2つの重点施策」にコミットしていますが、まず「3つの改革」における進捗についてご説明致します。

1つ目の「コスト構造改革」については、人員削減を含むあらゆるコスト削減・生産性向上を策定、実施中です。

人員削減では、主に欧米の拠点、製造ラインの統廃合を実施しています。上半期累計で500人超を削減し、前期と合わせて2,000人超を削減しました。これによるコスト削減効果は、上半期累計で2020年3月期と比較して58億円、当期末までに同じく130億円となる見込みです。なお、退職コストは前期2021年3月期に既に引当済です。

コスト削減については、「改革・革新」活動を通じた直接費低減の取り組みを執行中です。これまでに23億円削減し、期末までに43億円削減を達成する見込みです。

10月8日にニュースリリースを出しましたが、カナダの事業所では電力消費量とCO2排出量の削減を目指して蓄電システムを導入しています。

また、自動車ガラス事業における需要減少を受けて、追加で約50億円の追加コスト削減を開始しました。これにより自動車用ガラス事業の通期黒字化を目指します。

続いて「事業構造改革」ですが、ここでは高付加価値事業の拡大・新規成長分野の育成を進めています。

米国、ベトナムの太陽電池パネル用ガラスが収益寄与と同時にCO2削減による地球環境の保護に貢献しています。高付加価値事業の拡大のため進めてきたアルゼンチンの新フロート窯の建設は、来期の早い段階での本格稼働を目指して進捗しています。また、建物一体型太陽光発電パネル（BIPV）や抗ウイルスガラスなどといった当社グループに優位性のあるオンラ

インコーティング技術を生かした新製品の供給を開始し、新製品の開発をさらに促進するため、高機能ガラス事業にクリエイティブ・テクノロジー事業開発統括部を新設しました。さらには、製品による貢献だけでなく、水素燃焼や透明な窓用太陽光発電パネルの実証実験等、将来のカーボンニュートラルを目指した取り組みも開始しています。

「企業風土改革」については、「インクルージョン&ダイバーシティ (I&D) 」への取り組み強化をグローバル全体で進め、女性管理職比率上昇、若年層活性化を目指すとともに、RP24の目標を達成するために必要な人材育成プログラムを構築しています。

続いて「2つの重点施策」についてご説明致します。

「財務基盤の回復」については、「コスト構造改革」や「事業構造改革」等が功を奏し、純損益が前年同期から259億円と大幅に改善するとともに、自己資本比率も10%超まで回復しました。

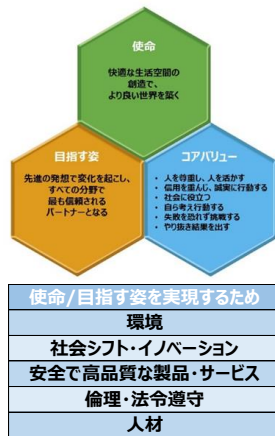
「高収益事業へのポートフォリオ転換」については、バッテリーセパレーター事業譲渡が、9月1日付で完了しました。

4. サステナビリティの推進

サステナビリティの推進

経営指針「Our Vision」、それに基づく「重要課題 (マテリアリティ) 」への対処として、TCFD (Task Force on Climate-related Financial Disclosures : 気候関連財務情報開示タスクフォース) 賛同表明。改訂コーポレートガバナンス・コードにも対応し、東証プライム市場へ移行

「Our Vision」と「重要課題 (マテリアリティ) 」



当社の取り組み (TCFD、改訂コーポレートガバナンス・コード)

環境 (サステナビリティを巡る課題への取り組み)

- ・SBTi (Science Based Targets initiative) 認定、CDP 開示に加え、TCFD賛同表明、TCFDコンソーシアム入会 (本日付ニュースリリースご参照)
- ・サステナビリティ基本方針策定

社会 (企業の中核人材の多様性確保)

- ・「インクルージョン&ダイバーシティ (I&D) 」への取り組みをグローバルで強化

ガバナンス (取締役会の機能発揮)

- ・改訂コーポレートガバナンス・コードが要請する「会社の持続的成長と中長期的な企業価値の向上を促し、収益力・資本効率等の改善を図る」取締役会
- ・①独立社外取締役を過半数選任、②取締役会の多様性確保、③取締役スキルマトリックス作成、④指名委員会、報酬委員会設置

東証プライム市場への移行

- ・改訂コーポレートガバナンス・コードに対応 (12月までに報告書提出予定)

続いて22ページはサステナビリティの推進についてです。

当社グループは、経営指針であるOur Visionやそれに基づくマテリアリティへの対処として、中長期的な企業の持続的成長と、持続可能な社会を目指し、様々な取り組みを実行してきました。

「環境」(E) につきましては、特に気候変動への対処はガラス製造業である当社グループにとって優先度の高い課題であり、そのため、温室効果ガスの排出削減には積極的に取り組んでいます。その結果、NSGグループの掲げる温室効果ガスの削減目標が評価され、SBTiイニシアチブの認定及び、CDPの気候変動に関するスコアもA-を取得しています。今般、これらに加え、気候関連財務情報開示タスクフォース、TCFDへの賛同を表明し、TCFDコンソーシアムに入会しました。詳しくは本日付のニュースリリースをご参照ください。あわせてサステナビリティ基本方針を本日の取締役会で採択決議し、これらにより改訂コーポレートガバナンス・コードに対応しています。

続いて、「社会」(S) ですが、企業の中核人材の多様性確保を目的とした「インクルージョン&ダイバーシティ」の取り組みをグローバルで強化しています。

「ガバナンス」(G) につきましては、改訂コーポレートガバナンス・コードでは「会社の持続的成長と中長期的な企業価値の向上を促し、収益力・資本効率等の改善を図る」取締役会が要請されています。当社グループは、従来より独立社外取締役を過半数選任、また国籍等取締役会の多様性を確保し、取締役スキルマトリックスを作成するとともに、委員の過半数を独立社外取締役とする指名委員会、報酬委員会を設置する等対応してきています。

このように改訂コーポレートガバナンス・コードの要請に対応したうえで、東証プライム市場への移行選択を本日付の取締役会で決議しました。これに基づき、本年12月までに、改訂コーポレートガバナンス・コードに対応したコーポレートガバナンス報告書とともに、プライム市場選択申請書を東証に提出する予定です。

説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

5. まとめ

まとめ



1. 2022年3月期 第2四半期決算

- 第1四半期にCOVID-19の影響を大きく受けた前年同期から、大きく増収増益
- 原燃材料費高騰の影響を受けるも値上げ、コスト削減で吸収、黒字を継続し、上半期業績予想を上回る
- 好調な事業業績等により自己資本、キャッシュ・フローも改善

2. 2022年3月期 通期業績予想

- 上期実績は業績予想を上回るも、不透明な事業環境を踏まえ、通期業績予想は変更なし
- 高騰したエネルギー価格等による投入コスト増加の影響を引き続き大きく受ける見通し
- 自動車用ガラス事業は半導体等部品不足の影響を受けるも、追加コスト削減により通期黒字化を目指す

3. RP24に基づく構造改革施策の進捗

- コスト構造改革: 人員削減およびコスト削減が進捗、自動車用ガラス事業で追加コスト削減開始
- 事業構造改革: 米国、ベトナム 太陽電池パネル用ガラスが収益寄与と同時にCO2削減に貢献
アルゼンチンにおける新フロート窯建設は、23/3期の早い段階で本格稼働を目指す
- 事業ポートフォリオ変革: バッテリーセパレーター事業譲渡は9月1日に完了

4. サステナビリティへの推進

- TCFD賛同表明済み
- 改訂コーポレートガバナンス・コードにも対応し、東証プライム市場移行へ

ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境及び競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市場環境、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社

補足資料

- 連結損益計算書（四半期別）
- 事業部門別・地域別業績 四半期別推移
- 四半期別セグメント情報
- 地域別業績
- 為替レート・為替感応度
- 減価償却費・資本的支出・研究開発費
- 2021年5月～2021年10月 主なニュースリリース

連結損益計算書 四半期別推移



| (億円) | 2020年 3月期 | | | | 2021年 3月期 | | | | 2022年 3月期 | |
|---------------------------------|--------------|-------|---------|-------|--------------|-------|---------|-------|--------------|-------|
| | 4-6月期 | 7-9月期 | 10-12月期 | 1-3月期 | 4-6月期 | 7-9月期 | 10-12月期 | 1-3月期 | 4-6月期 | 7-9月期 |
| 売上高 | 1,471 | 1,415 | 1,372 | 1,304 | 919 | 1,296 | 1,359 | 1,418 | 1,477 | 1,430 |
| 営業利益(△損失) | 88 | 61 | 31 | 32 | △ 6 | 38 | 48 | 51 | 72 | 55 |
| 営業利益率 | 6.0% | 4.3% | 2.3% | 2.5% | — | 2.9% | 3.5% | 3.6% | 4.9% | 3.9% |
| 個別開示項目(COVID-19関連) | — | — | — | △22 | △ 115 | △ 13 | △ 12 | △ 21 | — | — |
| COVID-19関連個別開示項目後 営業利益 (△損失) | 88 | 61 | 31 | 10 | △ 121 | 25 | 36 | 30 | 72 | 55 |
| 個別開示項目(その他) | △6 | △16 | △22 | △174 | 0 | △ 8 | 10 | △ 55 | △ 2 | 47 |
| 個別開示項目後営業利益 (△損失) | 82 | 45 | 9 | △164 | △ 121 | 17 | 46 | △ 25 | 70 | 102 |
| 金融費用(純額) | △35 | △28 | △32 | △23 | △ 24 | △ 30 | △ 21 | △ 35 | △ 30 | △ 29 |
| 持分法による投資損益 | 5 | 3 | 4 | △1 | △ 4 | 2 | 10 | 13 | 15 | 19 |
| 税引前利益 (△損失) | 52 | 20 | △19 | △188 | △ 149 | △ 11 | 35 | △ 47 | 55 | 92 |
| 当期利益 (△損失) | 31 | △7 | △5 | △194 | △ 165 | △ 7 | 37 | △ 28 | 29 | 67 |
| 純利益 (△損失) * | 29 | △10 | △7 | △201 | △ 164 | △ 9 | 34 | △ 30 | 25 | 61 |
| EBITDA | 175 | 142 | 115 | 118 | 61 | 127 | 135 | 145 | 165 | 146 |

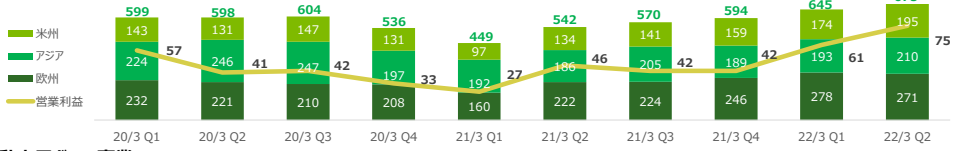
*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

事業部門別・地域別売上高及び営業利益 四半期別推移



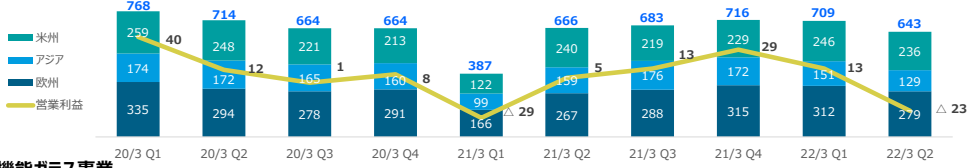
建築用ガラス事業

単位：億円



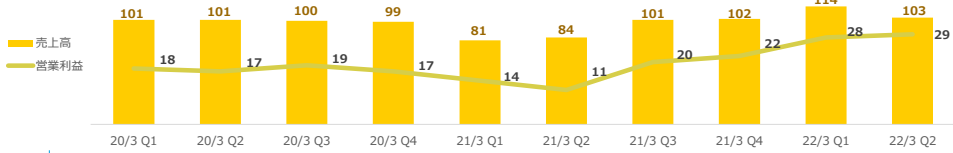
自動車用ガラス事業

単位：億円



高機能ガラス事業

単位：億円



セグメント情報



| (億円) | 2020年 3月期 | | | | | 2021年 3月期 | | | | | 2022年 3月期 | | |
|--------------|--------------|-------|---------|-------|-------|--------------|-------|---------|-------|-------|--------------|-------|-------|
| | 4-6月期 | 7-9月期 | 10-12月期 | 1-3月期 | 累計 | 4-6月期 | 7-9月期 | 10-12月期 | 1-3月期 | 累計 | 4-6月期 | 7-9月期 | 累計 |
| 売上高: 建築用ガラス | 599 | 598 | 604 | 536 | 2,337 | 449 | 542 | 570 | 594 | 2,155 | 645 | 675 | 1,320 |
| 欧州 | 232 | 221 | 210 | 208 | 871 | 160 | 222 | 224 | 246 | 852 | 278 | 271 | 549 |
| アジア | 224 | 246 | 247 | 197 | 914 | 192 | 186 | 205 | 189 | 772 | 193 | 210 | 403 |
| 米州 | 143 | 131 | 147 | 131 | 552 | 97 | 134 | 141 | 159 | 531 | 174 | 195 | 369 |
| 営業利益 | 57 | 41 | 42 | 33 | 173 | 27 | 46 | 42 | 42 | 157 | 61 | 75 | 136 |
| COVID後営業利益* | - | - | - | 27 | 167 | △ 22 | 41 | 38 | 34 | 91 | - | - | - |
| 売上高: 自動車用ガラス | 768 | 714 | 664 | 664 | 2,810 | 387 | 666 | 683 | 716 | 2,452 | 709 | 643 | 1,352 |
| 欧州 | 335 | 294 | 278 | 291 | 1,198 | 166 | 267 | 288 | 315 | 1,036 | 312 | 279 | 591 |
| アジア | 174 | 172 | 165 | 160 | 671 | 99 | 159 | 176 | 172 | 606 | 151 | 129 | 280 |
| 米州 | 259 | 248 | 221 | 213 | 941 | 122 | 240 | 219 | 229 | 810 | 246 | 236 | 482 |
| 営業利益 | 40 | 12 | 1 | 8 | 61 | △ 29 | 5 | 13 | 29 | 18 | 13 | △ 23 | △ 11 |
| COVID後営業利益* | - | - | - | △ 6 | 47 | △ 93 | △ 6 | 4 | 17 | △ 78 | - | - | - |
| 売上高: 高機能ガラス | 101 | 101 | 100 | 99 | 401 | 81 | 84 | 101 | 102 | 368 | 114 | 103 | 217 |
| 欧州 | 17 | 18 | 16 | 20 | 71 | 13 | 14 | 19 | 18 | 64 | 21 | 18 | 39 |
| アジア | 80 | 79 | 81 | 77 | 317 | 65 | 68 | 79 | 81 | 293 | 90 | 82 | 172 |
| 米州 | 4 | 4 | 3 | 2 | 13 | 3 | 2 | 3 | 3 | 11 | 3 | 3 | 6 |
| 営業利益 | 18 | 17 | 19 | 17 | 71 | 14 | 11 | 20 | 22 | 67 | 28 | 29 | 57 |
| COVID後営業利益* | - | - | - | 16 | 70 | 12 | 10 | 21 | 22 | 65 | - | - | - |
| 売上高: その他 | 3 | 2 | 4 | 5 | 14 | 2 | 4 | 5 | 6 | 17 | 9 | 8 | 18 |
| 営業利益 | △ 27 | △ 9 | △ 31 | △ 26 | △ 93 | △ 18 | △ 24 | △ 27 | △ 42 | △ 111 | △ 31 | △ 25 | △ 56 |
| COVID後営業利益* | - | - | - | △ 27 | △ 94 | △ 18 | △ 20 | △ 27 | △ 43 | △ 108 | - | - | - |
| 売上高: 合計 | 1,471 | 1,415 | 1,372 | 1,304 | 5,562 | 919 | 1,296 | 1,359 | 1,418 | 4,992 | 1,477 | 1,430 | 2,907 |
| 営業利益 | 88 | 61 | 31 | 32 | 212 | △ 6 | 38 | 48 | 51 | 131 | 72 | 55 | 127 |
| COVID後営業利益* | - | - | - | 10 | 190 | △ 121 | 25 | 36 | 30 | △ 30 | - | - | - |

2021年11月11日 | 2022年3月期第2四半期決算報告

*COVID-19関連個別開示項目後営業利益

地域別売上高及び営業利益

| (億円) | 2021年3月期 4-9期 | | | 2022年3月期 4-9期 | | | 増減 | |
|-------|---------------|------|---------------|---------------|------|---------------|-----|---------------|
| | 売上高 | % | 営業利益 (△損失) | 売上高 | % | 営業利益 (△損失) | 売上高 | 営業利益 (△損失) |
| 欧州 | 842 | 38% | 8 | 1,179 | 41% | 28 | 337 | 20 |
| アジア | 769 | 35% | 36 | 854 | 29% | 97 | 86 | 61 |
| 米州 | 598 | 27% | 29 | 857 | 29% | 57 | 259 | 28 |
| その他 * | 6 | 0% | △ 41 | 18 | 1% | △ 56 | 12 | △ 15 |
| 合計 | 2,215 | 100% | 32 | 2,907 | 100% | 127 | 692 | 95 |

* 「その他」セグメントの売上高、営業利益は地域別に区分していない。

為替レート



期中平均レート

| | 2020年 3月期 | | | | 2021年 3月期 | | | | 2022年 3月期 | |
|-----------|--------------|-------------------------|------|------|--------------|------|------|------|--------------|------|
| | Q1 | Q2 | Q3 | Q4 | Q1 | Q2 | Q3 | Q4 | Q1 | Q2 |
| 英ポンド | 141 | 137 | 138 | 138 | 133 | 135 | 136 | 139 | 153 | 152 |
| ユーロ | 124 | 121 | 121 | 121 | 118 | 121 | 123 | 124 | 132 | 131 |
| 米ドル | 109 | 109 | 109 | 109 | 107 | 106 | 106 | 106 | 109 | 109 |
| ブラジル・レアル | 28.0 | 27.6 | 27.2 | 26.4 | 19.9 | 19.8 | 19.7 | 19.7 | 20.6 | 20.8 |
| アルゼンチン・ペソ | 4.70 | 超インフレ会計の適用により、期末レートのみ使用 | | | | | | | | |

期末レート

| | 2020年 3月期 | | | | 2021年 3月期 | | | | 2022年 3月期 | |
|-----------|--------------|------|------|------|--------------|------|------|------|--------------|------|
| | Q1 | Q2 | Q3 | Q4 | Q1 | Q2 | Q3 | Q4 | Q1 | Q2 |
| 英ポンド | 137 | 133 | 144 | 133 | 132 | 135 | 141 | 152 | 153 | 150 |
| ユーロ | 123 | 118 | 122 | 119 | 121 | 124 | 127 | 130 | 132 | 129 |
| 米ドル | 108 | 108 | 109 | 108 | 107 | 105 | 103 | 111 | 111 | 112 |
| ブラジル・レアル | 28.3 | 26.0 | 27.1 | 20.8 | 19.9 | 18.7 | 19.8 | 19.1 | 22.3 | 20.6 |
| アルゼンチン・ペソ | 2.53 | 1.88 | 1.82 | 1.68 | 1.53 | 1.38 | 1.22 | 1.20 | 1.16 | 1.13 |

為替感応度

他の前提に変動がない条件で、
為替レートが他の通貨に対して
1%円高になった場合の影響額

| | 2021年 3月期 |
|------|--------------|
| 資本 | 31.0億円の減少 |
| 当期損失 | 1.0億円の改善 |

減価償却費・資本的支出・研究開発費

| (億円) | 2021年3月期 4-9月期 | 2022年3月期 4-9月期 | 2022年3月期 見通し |
|--------------|-------------------|-------------------|-----------------|
| 減価償却費 | 174 | 184 | 350 |
| 資本的支出 | 175 | 102 | 290 |
| 通常投資 | 54 | 93 | |
| 戦略投資、他 | 121 | 9 | |
| 研究開発費 | 44 | 41 | 90 |
| 建築用ガラス事業 | 12 | 12 | |
| 自動車用ガラス事業 | 12 | 12 | |
| 高機能ガラス事業 | 4 | 5 | |
| その他 | 16 | 12 | |

2021年5月～10月 主なニュースリリース

(<https://www.nsg.co.jp/ja-jp/media>)



| | |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 2021年5月18日 | 第10回化粧品産業技術展への出展のお知らせ |
| 2021年5月29日 | 人とするテクノロジー展2021 ONLINEへの出展のお知らせ |
| 2021年6月24日 | 光ファイバーと同径の極細セルフォック®マイクロレンズの開発に成功 |
| 2021年6月28日 | ゾルゲル法コーティングによる抗菌・抗ウイルスガラス「NSG Purity™」を生産開始予定 |
| 2021年7月13日 | コーポレートガバナンスに関する報告書を更新・開示しました |
| 2021年7月29日 | 国内建築用板ガラス製品の価格改定について |
| 2021年8月2日 | 世界初のフル拡張現実ヘッドアップディスプレイ対応ガラスがメルセデス・ベンツ社のフラッグシップモデルに採用 |
| 2021年8月31日 | ESG指数「FTSE Blossom Japan Index」構成銘柄に初選定 |
| 2021年9月1日 | ゼロエネルギー実現に貢献する透明な窓用太陽光発電パネルの実証実験の開始について |
| 2021年9月1日 | (開示事項の経過) バッテリーセパレーター事業の会社分割 (簡易吸収分割) による当社完全子会社への承継および当該当社完全子会社株式の譲渡に関するお知らせ |
| 2021年9月3日 | 世界初、水素エネルギーによる建築用ガラスの製造実験に成功 |
| 2021年10月4日 | 抗菌・抗ウイルス膜付きガラス NSG Purity™ページを公開しました |
| 2021年10月8日 | カナダの事業所にNSGグループ初の蓄電システムを設置 |
| 2021年10月25日 | Cohda社と共同で未来的な導電ガラスアプリケーションを製作 |

NSG
GROUP